

はじめに

令和6年1月1日に発生した能登半島地震により、建物だけでなく地域コミュニティや産業に甚大な被害が生じました。被災された皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。

近年激甚化する自然災害に対し、文化遺産防災の重要性が高まっていると言えます。立命館大学歴史都市防災研究所は、文化遺産の宝庫とも言うべき京都・滋賀・大阪を拠点として、芸術・文化の保全と、それを支える環境・コミュニティを含めた災害対策を、一体の物として捉える「文化遺産防災学」の教育・研究を推進しています。

地域に根ざした文化遺産とこれを取り巻く歴史都市は、貴重な社会的共通資本です。それらは長い時間をかけて醸成されてきた人々の文化的活動の結晶であり、ひとたび失うと二度と再生はできません。この文化的価値を維持しながら、災害の脅威から守り、次世代へと受け渡していくことは現代を生きる私たちの責務です。

文化遺産や歴史都市の持つオリジナリティを損なわずに、地域に根ざしたコミュニティや伝統、水や緑、環境などの地域資源を活かした減災に取り組むには、減災を文化に高めるための新たな考え方が必要になります。このため、従来の学問分野を超えて人文社会学と理工学を融合した取り組みが求められます。2003年の歴史都市防災研究センター設立以降20年にわたり、文部科学省21世紀COEプログラム、同グローバルCOEプログラム等の外部資金を積極的に獲得しながら、研究活動を行ってきました。ユネスコより当時のセンターにユネスコ・チェアが設置されるなど文化遺産防災の国際研修事業を通じて、文化遺産防災学の国際的なネットワーク・ハブの役割を当研究所が担っています。さらに、研究実績を基盤に、文化的で安全な社会の発展に貢献できる方策を国内外に提供する教育研究拠点の形成とともに、アーカイブ等の情報技術を駆使する本学アート・リサーチセンターとも連携しつつ、国内外の人材と研究プロジェクトが集うプラットフォームの構築も目指しています。

本研究所年報には、研究所メンバーおよび各部会の研究プロジェクトの成果がまとめられています新型コロナウイルス感染症拡大の影響でオンラインやハイブリッドを取り入れ、国際研修やシンポジウム、マップコンテストに際して、研究者と事務局、客員協力研究員の先生方や協賛企業様のお力添えをいただきながら開催形態を確立できました。

激甚化する自然災害に対して、より社会実装や防災教育といった観点での貢献も期待されています。引き続き、地域社会を始めとした産官学との連携や、NPO/NGO、そして国際機関とも連携して、「文化遺産防災学」の発展、文化的価値を継承する歴史と伝統の研究、実践的な防災技術の獲得、即戦力となる実務家と研究発展を担う若手研究者の輩出に取り組むとともに、当該分野の国際的な中心拠点として、社会貢献へ向けた機能を担える教育研究環境を確立していく所存です。皆様方のご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願いを申し上げます。

立命館大学 歴史都市防災研究所 所長 吉富 信太

